

南飛驒 ぼうさいかわら版

下呂市防災まちづくりミーティング

平成30年11月19日
下呂交流会館

発表テーマ「隣近所の日頃の結びつきが、災害への備えの第一歩」

☆【小坂.落合区.岩佐正彦区長】 向う三軒両隣りの見守り・助け合い体制

- ・濁流が盛り上がり流れた、後1時間降り続けば大変な状況になっていたであろう。
 - ・地区防災計画のモデル地区になり、当初災害は他人事のような気持ちがあったが、回を重ねて話合うにつれ「自分達の地区は自分達で守る」の気持ちが芽生えた。
 - ・2~4名の小班分けて避難訓練を重ね、決められた班長不在でも避難行動が出来るようになった。
- (岩井コデイネリ) 共助の在り方が、近隣同士で助け合う「近助」が構築され素晴らしく感じられました。



☆【萩原.上上呂区女性代表.船坂昭子氏】 地域の力で避難所運営

- ・他地域の災害報道に接してもまさか自地区でとは思わず、他人事と思っていた。
 - ・非常食(アルファ米)を、食べ易いように工夫してオニギリにして提供した。
 - ・多方面から飲み物や野菜、菓子などの提供があり、沢山の人間に支えられました。
 - ・避難所が、星雲会館、あさんず会館、上上呂公民館などと3カ所に移り替わった。
 - ・婦人会組織が継続しており、そのOBに応援を求めたら快く引き受けて頂いた。
- (岩井コデイネリ) 女性目線の細やかな気遣いの避難所運営は、災害関連死などの防止に有効的です。



☆【下呂.中原区.久野川.今井 隆町内会長】 地域ぐるみで災害復旧・災害予防

- ・助け合う文化が根付いており、住民総出と消防団の作業で順調に復旧が進んだ。
 - ・住民男性のほとんどが長期の消防団員経験者で、危機管理が身に付いている。
 - ・地区の申し合わせで危険な作業はしない事、高齢者などの健康管理を重視した。
 - ・落石や倒木の処理作業を経験した住民が多く、ケガ人も無く順調に出来た。
- (岩井コデイネリ) 災害時に危険な場所へ立ち入らないことは、重要なことですね。



☆【金山.金山第2区.河尻正敏防災委員長】 地域の結びつきで被災者支援

- ・7月8日深夜に岩屋ダムが、通常の3倍の大放流の情報により192名が避難した。
 - ・町内を流れる谷の氾濫で、多くの民家が床上、床下浸水をして甚大な被害が出た。
 - ・発災翌日から多数の近隣住民が、自主的に被災場所の片付けや清掃に協力した。
 - ・12日以降ボラセンの設置により、他地区や近隣区の683名が復旧に参加した。
 - ・災害廃棄物の集積場が近くにあり、市環境課の適切な分別指示が功を奏した。
 - ・消防団が私服で復旧作業に携わるなど、自発的な助けがあった。寒冷期の場合は犠牲者もあり得る。
- (岩井コデイネリ) 今後どのような避難訓練を考えますか。(河尻) 救助訓練や、中高生を担い手としたい。



☆【馬瀬.西村区.吉永秀美区長】 台風21号による長時間停電への対応

- ・防災訓練は毎回工夫をして実施しているが、マンネリ化しているように思える。
 - ・西村の素晴らしいところは、倒木処理が行政に頼ることなく自ら出来る事です。
 - ・停電初日は楽観、2日目は不安感、3.4日目は怒りと強い苦情、5日目はあきらめ感。
 - ・困り事調査を行い、発電機で携帯電話の充電を行うが、発電機の不調があった。
 - ・危険個所の点検実施、正しい情報伝達や地区の防災に関して何が出来るか見直しが必要と考える。
- (岩井コデイネリ) 防災の備蓄品や機器などは、日頃の継続した点検整備が重要ですね。



『全国消防操法全国大会で準優勝』（平成30年10月19日 富山県広域消防防災センター）

岐阜県大会は平成28年の第65回に続いて2回連続出場し、郡上市明宝で行われた第67回県大会で萩原方面隊第5分団第4部(桜洞)が、41.06秒、総得点87.3で見事優勝を果たし益田郡時代を通して下呂市から初めて全国大会へ駒を進めました。全国大会は消防庁・日本消防協会の主催で行われ小型ポンプの部は25県が出場して行われました。初出場の期待とプレッシャーをはねのけ日頃の訓練の成果をいかに発揮して41.73秒、総得点88.5点で堂々と4位に入賞し準優勝に輝きました。

出場団員はもとより、裏方を務められた同部の団員、関係者の方々は仕事の疲れをものともせず、連夜の訓練に耐えられ誠に御苦労さまでした。全国大会出場への栄誉を得てからの集中力と緊張感を持続することは大変な忍耐と努力があり、ご家族の協力や内助の功のご苦労があったことと思われます。

「おめでとうございます！ ご苦労さまでした。」



県大会優勝 連続出場の実力を発揮しました。

全国大会準優勝 継続した努力の結果です。

『金山町 菅田小学校で親子防災ウォーキング』（平成30年6月27日）

母親委員会が企画して、子供達と危険な個所や過去の水害などを学ぼうと、授業参観日に合わせて実施されました。菅田地区のまち起こしグループの「クリエイティブすがたほたる」の会員14名が協力して、同グループの防災士から地区内で過去にあった水害や土砂災害の事例を聞いてから歩き出しました。

全校児童55名と保護者が5班に分かれて学校周辺での危険と思われる所などを確認しながら、約3kmを歩きました。五ヶ所に分散して待ち受けていた防災士からは昔にあった風水害や、最近発生した水害などの話を聞きました。児童達はどの場所でも真剣に聞き入り、「学校の周りや、自分達の通学路には危ない所がいっぱいある。学校への行き帰りや友達と遊ぶ時は気を付けたい」などと話していました。



昔にあった水害などの話を聞く児童とお母さん

下呂市防災士会 会員数が213名に、うち女性防災士は15名！（平成30年12月20日現在）

平成26年7月に70名で発足した本会が、所属する防災士が213名になりました。今後は各々の防災士がスキルの向上と、女性防災士の増員、地域の理解と協力が不可欠と考えられます。表中()は女性防災士

【北支部】 94名 (小坂 27名 (0名) 萩原49名 (4名) 馬瀬18名 (0名))		
【中支部】 41名 (1名)	【南支部】 55名 (7名)	【職員部会】 23名 (3名)



自然災害と共に生きる ～火山防災・火山対策を考える～

平成30年8月21日 PM 1:30～
小坂町 きこりセンター



岐阜大学地震工学研究室防災グループの主催で行われ、小坂地域の自治会・NP0200滝・市内防災士・岐阜市高山市からの防災士・名古屋から砂防学会の東海支部長・市職員など30名余が参加しました。

岐阜大学小山准教授の趣旨説明の後、長野県危機管理部火山防災幹から「火山防災・火山対策で大事なこと」として、火山防災の知識や噴火時の状況・救助活動の状況などについての話を聞きました。

休憩の後、奥飛騨温泉郷の焼岳にほど近い中尾温泉で旅館経営の箕浦防災士が、中尾地区の焼岳に対する火山防災の取り組みの発表があり、地区の住民70名程で、最盛期は700人余にもなる観光客をどうして焼岳の噴火災害から守るかの地元住民の悩みや、試行錯誤の試みを発表されました。

その後車座になって小山准教授の司会で参加者が順に自己紹介の後、火山防災に限らず様々な防災に対する考えや思いなどの活発な意見交換を行いました。



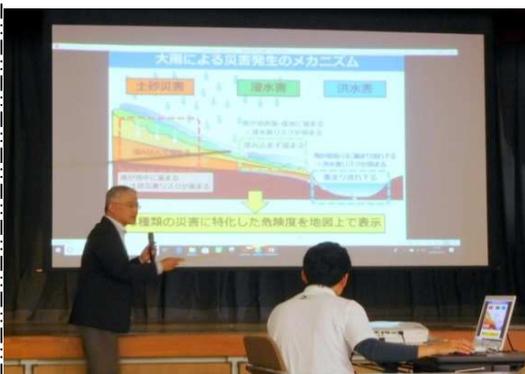
発表の箕浦防災士



車座で意見交換会

『防災まちづくり講演会』 (平成30年10月27日 PM 1:00～ 下原公民館)

金山の地域づくり団体「一般社団法人E-ne金山」が主催し「防災まちづくり講演会」が行われました。講師は金山町の出身で、福井気象台長の磯部英彦氏が帰郷される予定に合わせて開催されました。市内各地に大きな爪痕を残した7月豪雨時の気象図などを示して、なぜこのような雨が降り続いたかを詳しく解説されました。講義のあと地元出身という気易さもあってか参加者からは活発な質問が相次ぎ、「金山が8月6日に全国一の41.0度という高温を観測したのは、観測位置の直近の条件に左右されたのでは？」との問いに、「当時は周辺の広い地域で高温が観測されており、近くの駐車スペースなどの影響は無いだろう」との回答でした。質疑のあと参加者の地区毎にハザードマップを囲んで豪雨時に対する考えや、今後に繋げる7月豪雨災害時の経験を話し合いました。グループ毎の発表では、「今夏の豪雨災害で、地域が助け合うことで人間関係が深まったように思う」などの声がありました。



映像を示し講演中の磯部英彦講師



活発な質疑と応答が続きました

おらんとこの自主防災 萩原町 大ヶ洞区自主防災会

(平成30年11月25日)

大ヶ洞自主防災会救護班と防災士が、午後から3時間かけて応急手当の訓練を行いました。

講師は金山町谷合区に加藤英之防災士と、日赤奉仕団下呂支部から女性団員三名が担当しました。

カイトライン 2015対応へ大ヶ洞自主防災会 (金山町奉仕団+日赤防災士)

応急手当

- 救命処置
 - 呼吸や心臓が止まったとき → 心肺蘇生 (胸骨圧迫と人工呼吸)
 - 喉にものが詰まったとき → 気道異物の除去 (腹部突き上げ法など)
- AED使用
- 回復体位
 - 楽な姿勢をとらせる方法 (保温 体位など)
 - 回復体位比
 - 体位変換
 - 傷病者の運び方 (搬送法) 毛布活用
 - 出血に対する応急手当 (止血法)

⑤ 一次救命処置

1. 傷病者発見
2. 周囲の安全確認
3. 体の状態観察
4. 意識の確認
5. 協力者の依頼
6. 呼吸の確認
7. 胸骨圧迫と人工呼吸
8. AEDの到着
9. 救急隊へ引き継ぎ

＜三角巾の手当＞

1. 三角巾の説明
2. 折り方・結び方
3. 頭部手当て
4. 膝手当て
5. 腕の手当て



(乳児への胸骨圧迫)



(大声で応援を求め指名して通報とAEDの手配)



(胸骨圧迫、強く速く 絶間なく100~120回)



(AEDが届き、素早く装着します)



(四折・八折から本結び)



(耳のケガを手当します 端末処理も丁寧に)

(声掛けして安心させながら 素早く正確に)



(うつ伏せから、回復体位へ)

受講された救護班のメンバーは、始めは緊張の面持ちでしたが、訓練を進めるうちに時折り笑い声が聞こえ和やかな雰囲気、休憩を挟み3時間の訓練を終わりました。地区の防災会救護班のレベルアップに期待出来ます。

(編集後記) 提案者として何とか13号まで各位の協力で編集発行を続けてまいりました。これまで続けられたのも関係各位のご協力があったの事と思ひ、深く感謝を申し上げます。特に南支部のK氏とS氏には、校正作業に長らく協力頂き、ご苦勞をお掛け致しました。

取材から編集まで単独では、地域的な偏りや文章に個人的な思い入れが出るとして、何度か編集委員の人選をお願い致しましたが実現には至りませんでした。この原因はひとえに提案者の不徳さが原因であると考えます。誠に残念ながらこの13号をもって「南飛驒ぼうさい瓦版」を休刊とさせていただきます。出来得れば本誌を引き継いで頂ける組織が現れることを切望しております。ご愛読誠に有難うございました！。広報担当金子恒紀 拜

